

National Clinical Database: 消化器外科領域

リスクモデル補足資料

現在フィードバック機能で公開されている消化器外科領域のリスクモデルに関する、次の情報を掲載しています。

【対象術式】

- ・食道切除再建術
- ・胃切除術
- ・胃全摘術
- ・結腸右半切除術
- ・低位前方切除術
- ・肝切除術
- ・膵頭十二指腸切除術
- ・急性汎発性腹膜炎手術

【掲載情報】

- ・アウトカムの定義
- ・各術式・アウトカムのリスク因子とそのオッズ比, リスクモデルの対象術式,

◆全般的事項

1. 各術式のリスクモデルで推定されるアウトカムの定義は、以下になります。

- ・30-day mortality: 術後30日以内の死亡
- ・operative mortality: 術後30日以内, または入院中(術後90日まで)の死亡

2. リスクモデルについて

- ・予測率の計算は, NCDのデータに基づいて構築されたリスクモデルをもとに開発されています。

3. 本機能の使用について

- ・本機能は, あくまでも統計学的な予測に基づく推定結果を表示しています。
- ・患者さんへのインフォームド・コンセントでご使用される場合など, あくまでも予測値であることをご理解のうえ, ご使用頂きますよう, お願い申し上げます。

4. 本資料の取り扱いについて

- ・本資料は, NCDフィードバック機能の使用上の範囲内でご使用ください。
それ以外の目的での使用はお控えくださいますよう, お願い申し上げます。
- ・本資料に関するご質問等は, NCD事務局までお問い合わせください。

◆リスクモデル: 食道切除再建術

リスク因子とそのオッズ比の一覧

項目名	入力画面上の選択肢	食道切除再建術	
		30-day mortality	operative mortality
年齢カテゴリ	60<, 60<= <65, 65<= <70, 70<= <75, 75<= <80, 80<=	1.51	1.36
患者性別	男性	-	2.26
術前1年以内の喫煙	あり	2.58	-
日常生活動作(ADL)(術前30日以内)	・部分介助(装具・機器の使用を含むが、杖など 日常的に使用するものは除く) ・全介助	4.20	4.71
慢性閉塞性肺疾患(COPD)	あり	-	2.10
体重減少(過去6か月に10%以上)	あり	2.43	1.98
腫瘍の部位・特性	転移・再発癌(肝、肺、リンパ節、局所、卵巣、腹膜、その他)	-	4.46
血小板	12万/ μ l未満	-	1.98
	40万/ μ l以上	2.51	-
アルブミン	3.5g/dl未満	-	2.23
尿素窒素	8mg/dl未満	-	2.56
血清ナトリウム	135mEq/l未満	3.59	-
	138mEq/l未満	-	2.07
プロトロンビン時間国際標準比(PT-INR)	1.1以上	2.02	-
	1.25以上	-	3.00
白血球	4000/ μ l未満	2.77	-
	4500/ μ l未満	-	1.79
	12000/ μ l以上	3.65	-

◆リスクモデル: 胃切除術

リスク因子とそのオッズ比の一覧

項目名	入力画面上の選択肢	胃切除術	
		30-day mortality	operative mortality
年齢カテゴリ	60<, 60<= <65, 65<= <70, 70<= <75, 75<= <80, 80<=	1.20	1.33
緊急手術	はい	—	1.86
飲酒習慣	習慣的	1.57	—
呼吸困難(術前30日以内)	・中等度労作時に呼吸困難が起こる、 ・安静時でも呼吸困難がある	—	2.39
日常生活動作(ADL)(術前30日以内)	全介助	2.96	—
日常生活動作(ADL)(術直前)	全介助	—	3.00
入室時肺炎(胸部X-P, CTで肺炎像を認める, または喀痰細菌培養で陽性の場合)	あり	2.77	—
腹水(術前30日以内)	あり(未治療)	2.98	2.77
心筋梗塞の既往(術前6か月以内)	あり	3.13	—
脳障害の既往	・COMA(24時間以上持続した昏睡)、 ・CVA(中枢神経障害が72時間以上持続したもの)、 ・RIND(72時間以内に消失した中枢神経障害の既往)、 ・TIA(24時間以内に消失した中枢神経障害の既往)	2.08	1.78
多発転移を伴う高度進行癌(術直前)	あり	—	2.90
長期的ステロイド投与	あり(術前30日以前に中止)、あり	—	2.78
体重減少(過去6か月に10%以上)	あり	2.27	2.19
血液凝固異常(術直前)	あり(抗凝固療法なし)	3.22	—
米国麻酔科学会全身状態分類(ASA-PS分類)	・ASA3-重篤な全身疾患を有する患者、 ・ASA4-生命の危険がある重篤な全身疾患を有する患者、 ・ASA5-手術なしでは生存することが難しいと考えられる瀕死の患者	1.95	1.91
クレアチニン	1.2mg/dl以上	1.77	1.80
ヘモグロビン	男性13.5g/dl未満、女性12.5g/dl未満	1.81	—
2 ヘマトクリット	男性37%未満、女性32%未満	—	1.44
血小板	12万/μl未満	—	2.01
アルブミン	3.5g/dl未満	1.49	—
	3.8g/dl未満	—	1.74
総ビリルビン	2mg/dl以上	—	2.63
AST(GOT)	40U/l以上	—	1.52
アルカリホスファターゼ(ALP)	340U/l以上	2.16	1.56
血清ナトリウム	135mEq/l未満	2.48	2.25
プロトロンビン時間国際標準比(PT-INR)	1.1以上	—	1.53
	1.25以上	2.03	—
白血球	11000/μl以上	—	2.55
	12000/μl以上	1.84	—
部分トロンボプラスチン時間(APTT)	40sec以上	—	1.58

◆リスクモデル: 胃全摘術

リスク因子とそのオッズ比の一覧

項目名	入力画面上の選択肢	胃全摘	
		30-day mortality	operative mortality
年齢区分	<60, 60≤<65, 65≤<70, 70≤<75, 75≤	1.19	1.29
緊急手術	はい	-	1.66
糖尿病	あり(インシュリン治療)	2.18	-
呼吸困難(術前30日以内)	あり(中等度労作時に呼吸困難が起こる、安静時でも呼吸困難がある)	-	1.72
日常生活動作(ADL)(術直前)	あり(部分介助(装具・機器の使用を含むが、杖など日常的に使用するものは除く)、全解除)	2.09	2.02
心臓外科手術の既往(ペースメーカー挿入などを除く)	あり	2.35	-
透析(術前14日以内)	あり	3.91	2.58
腹水(術前30日以内)	あり(あり(未治療)、あり(治療でコントロールされている)、あり(難治性))	2.02	1.75
脳障害の既往	あり(TIA, RIND, CVA, COMA)	-	1.86
多発転移を伴う高度進行癌(術直前)	あり	2.64	3.46
体重減少(過去6か月以内に10%以上)	あり	-	1.58
術前輸血(術前72時間以内)	あり	1.94	-
白血球	11000/ μ l以上	-	2.04
	3500/ μ l未満	-	1.63
ヘモグロビン	男性・13.5g/dl未満	1.66	-
	女性12.5g/dl未満	-	-
ヘマトクリット	30%未満	-	1.34
血小板	50,000/ μ l未満	3.06	-
	3.0 g/dl未満	-	1.35
アルブミン	3.5 g/dl未満	1.71	1.41
	2.0mg/dl未満	2.92	2.75
AST(GOT)	35 IU/l以上	2.34	1.69
アルカリホスファターゼ(ALP)	340IU/l以上	1.68	-
	600 IU/l以上	2.46	3.12
尿素窒素	25mg/dl以上	1.89	-
血清ナトリウム	138mEq/l未満	-	1.43
プロトロンビン時間国際標準比(PT-INR)	1.25以上	2.18	1.88
膵体尾部切除術(悪性)	あり	-	2.22
米国麻酔科学会全身状態分類(ASA-PS分類)	ASA3	-	1.82
	ASA4, ASA5	9.38	5.25

◆リスクモデル:結腸右半切除術

リスク因子とそのオッズ比の一覧

項目名	入力画面上の選択肢	結腸右半切除術	
		30-day mortality	operative mortality
年齢カテゴリ	60<, 60<= <65, 65<= <70, 70<= <75, 75<= <80, 80<=	-	1.12
緊急手術	はい	1.94	1.93
日常生活動作(ADL)(術直前)	・部分介助(装具・機器の使用を含むが、杖など 日常的に使用するものは除く) ・全介助	2.83	2.51
腹水(術前30日以内)	・あり(治療でコントロールされている) ・あり(難治性)	-	1.59
うっ血性心不全(術前30日以内)	あり	2.30	2.16
動脈性閉塞性疾患(PVD)による症状に関連した手術の既往	あり	-	3.13
急性腎不全(術前24時間以内)	あり	3.23	-
透析(術前14日以内)	あり	-	2.51
多発転移を伴う高度進行癌(術直前)	あり	-	3.08
長期的ステロイド投与	・あり(術前30日以前に中止) ・あり	-	2.01
体重減少(過去6か月に10%以上)	あり	-	1.64
術前敗血症(術直前)	・SIRS ・敗血症 ・重症敗血症/敗血症性ショック	2.01	1.66
米国麻酔科学会全身状態分類(ASA-PS分類)	ASA3-重篤な全身疾患を有する患者	2.32	1.62
	・ASA4-生命の危険がある重篤な全身疾患を有する患者 ・ASA5-手術なしでは生存することが難しいと考えられる瀕死の患者	3.99	2.91
腫瘍の部位・特性	転移・再発癌(肝、肺、リンパ節、局所、卵巣、腹膜、その他)	2.17	1.61
ヘマトクリット	男性37%未満	-	1.41
	女性32%未満	-	1.41
血小板	5万/ μ l未満	5.59	-
	8万/ μ l未満	-	2.55
	12万/ μ l未満	1.88	1.66
アルブミン	3g/dl未満	-	1.45
	4g/dl未満	1.98	-
総ビリルビン	1mg/dl以上	-	1.60
	3mg/dl以上	3.12	-
AST(GOT)	35U/l以上	3.08	-
	40U/l以上	-	2.66
尿素窒素	8mg/dl未満	-	1.64
	60mg/dl以上	-	2.42
血清ナトリウム	138mEq/l未満	2.06	1.90
	145mEq/l以上	-	1.93
プロトロンビン時間国際標準比(PT-INR)	1.1以上	1.51	1.36
白血球	9000/ μ l以上	1.55	1.61

◆リスクモデル: 低位前方切除術

リスク因子とそのオッズ比の一覧

項目名	入力画面上の選択肢	低位前方切除術	
		30-day mortality	operative mortality
年齢カテゴリ	60<, 60<= <65, 65<= <70, 70<= <75, 75<= <80, 80<=	1.34	1.41
患者性別	男性	-	1.92
呼吸困難(術前30日以内)	中等度労作時に呼吸困難が起こる 安静時でも呼吸困難がある	-	2.91
日常生活動作(ADL)(術直前)	全介助	-	2.92
	部分介助(装具・機器の使用を含むが、杖など 日常的に使用するものは除く)、全介助	-	2.50
腹水(術前30日以内)	あり(治療でコントロールされている)、あり(難治性)	-	4.04
動脈性閉塞性疾患(PVD)による症状に関連した手術の既往	あり	6.24	5.79
多発転移を伴う高度進行癌(術直前)	あり	4.89	2.80
血液凝固異常(術直前)	あり(抗凝固療法なし)	5.22	-
術前輸血(術前72時間以内)	あり	5.36	2.58
BMI	30以上	7.01	1.52
クレアチニン	3mg/dl以上	-	4.00
ヘモグロビン	男性13.5g/dl未満、女性12.5g/dl未満	-	2.60
ヘマトクリット	男性48%以上、女性42%以上	-	3.56
血小板	12万/ μ l未満	2.50	3.44
アルブミン	2.5g/dl未満	-	2.71
	4g/dl未満	3.41	-
尿素窒素	25mg/dl以上	3.58	-
AST(GOT)	40U/l以上	-	1.89
血清ナトリウム	138mEq/l未満	3.58	2.54

◆リスクモデル:肝切除術

リスク因子とそのオッズ比の一覧

項目名	入力画面上の選択肢	肝切除術	
		30-day mortality	operative mortality
年齢カテゴリ	60<, 60<= <65, 65<= <70, 70<= <75, 75<= <80, 80<=	1.38	1.36
患者性別	男性	1.58	1.53
緊急手術	はい	3.84	2.78
日常生活動作(ADL)(術前30日以内)	・部分介助(装具・機器の使用を含むが、杖など日常的に使用するものは除く) ・全介助	2.07	2.79
慢性閉塞性肺疾患(COPD)	あり	-	2.02
入室時肺炎(胸部X-P, CTで肺炎像を認める、または喀痰細菌培養で陽性の場合)	あり	-	3.77
腹水(術前30日以内)	・あり(治療でコントロールされている) ・あり(難治性)	2.10	1.85
米国麻酔科学会全身状態分類(ASA-PS分類)	・ASA3-重篤な全身疾患を有する患者 ・ASA4-生命の危険がある重篤な全身疾患を有する患者 ・ASA5-手術なしでは生存することが難しいと考えられる瀕死の患者	2.02	2.03
クレアチニン	2mg/dl以上	3.94	-
ヘモグロビン	10g/dl未満	-	1.80
血小板	8万/μl未満	-	2.15
	12万/μl未満	1.74	1.57
アルブミン	3g/dl未満	-	1.67
	3.5g/dl未満	2.01	1.64
AST(GOT)	35U/l以上	2.31	1.69
プロトロンビン時間国際標準比(PT-INR)	1.1以上	1.73	1.41
肝切除部位	S1	-	1.62
肝切除部位	S7	-	1.56
肝切除部位	S8	2.17	1.96
尾状葉合併左3区域切除	【肝切除部位】で、次の全てが選択されている「S1」、「S2」、「S3」、「S4」、「S5」、「S8」	-	3.89
腫瘍の部位・特性	肝(肝内胆管癌)	-	1.78
	肝外胆管-遠位側	2.52	-
	胆嚢	4.07	-
胆嚢悪性腫瘍手術	【術式コード1】～【術式コード8】のいずれかで、「NQ0505」または「OQ0191」が1つでも選択されている	-	3.24
肝切除術:血行再建を併せ行う	【術式コード1】～【術式コード8】のいずれかで、「OQ0226」が1つでも選択されている	3.84	2.96
肝外胆道切除:肝切除を伴うもの	【術式コード1】～【術式コード8】のいずれかで、「OQ0232」が1つでも選択されている	-	2.00

◆リスクモデル: 膵頭十二指腸切除術

リスク因子とそのオッズ比の一覧

項目名	入力画面上の選択肢	膵頭十二指腸切除術	
		30-day mortality	operative mortality
年齢カテゴリ	60<, 60<= <65, 65<= <70, 70<= <75, 75<= <80, 80<=	0.25	0.26
緊急手術	はい	1.42	-
呼吸困難(術前30日以内)	中等度労作時に呼吸困難が起こる 安静時でも呼吸困難がある	-	0.88
日常生活動作(ADL)(術前30日以内)	部分介助(装具・機器の使用を含むが、杖 など 日常的に使用するものは除く)、全介 助	-	0.63
慢性閉塞性肺疾患(COPD)	あり	1.23	-
心筋梗塞の既往(術前6か月以内)	あり	-	1.27
体重減少(過去6か月に10%以上)	あり	0.68	0.73
米国麻酔科学会全身状態分類(ASA-PS分類)	ASA3-重篤な全身疾患を有する患者 ASA4-生命の危険がある重篤な全身疾患 を有する患者 ASA5-手術なしでは生存することが難しい と考えられる瀕死の患者	0.81	0.93
BMI	25以上	0.85	0.58
クレアチニン	3mg/dl以上	-	1.11
アルブミン	2.5g/dl未満	0.90	0.62
総ビリルビン	2mg/dl以上	0.48	0.48
血清ナトリウム	146mEq/l以上	-	0.94
白血球	12000/ μ l以上	-	1.31
部分トロンボプラスチン時間(APTT)	40sec以上	0.94	0.86

◆リスクモデル: 急性汎発性腹膜炎手術

リスク因子とそのオッズ比の一覧

項目名	入力画面上の選択肢	急性汎発性腹膜炎	
		30-day mortality	operative mortality
年齢カテゴリ	60<, 60<= <65, 65<= <70, 70<= <75, 75<= <80, 80<=	1.24	1.26
救急搬送	あり	1.37	-
呼吸困難(術前30日以内)	中等度労作時に呼吸困難が起こる、安静時でも呼吸困難がある	1.59	-
入室時肺炎(胸部X-P, CTで肺炎像を認める、または喀痰細菌培養で陽性の場合)	あり	-	1.41
日常生活動作(ADL)(術直前)	全介助	1.40	-
	部分介助(装具・機器の使用を含むが、杖など 日常的に使用するものは除く)、全介助	-	1.35
日常生活動作(ADL)(術前30日以内)	全介助	-	1.59
経皮的冠動脈インターベンション(PCI)の既往	あり	2.05	-
動脈性閉塞性疾患(PVD)による症状に関連した手術の既往	あり	2.45	-
多発転移を伴う高度進行癌(術直前)	あり	2.16	2.09
体重減少(過去6か月に10%以上)	あり	-	1.39
長期的ステロイド投与	あり(術前30日以前に中止)、あり	1.74	1.92
血液凝固異常(術直前)	あり(抗凝固療法なし)	1.65	1.62
術前輸血(術前72時間以内)	あり	1.60	1.81
	ASA5-手術なしでは生存することが難しいと考えられる瀕死の患者	8.65	6.54
	ASA4-生命の危険がある重篤な全身疾患を有する患者	4.28	4.67
米国麻酔科学会全身状態分類(ASA-PS分類)	ASA3-重篤な全身疾患を有する患者	2.69	2.27
	腫瘍の性状	腫瘍なし	0.65
ヘモグロビン	10g/dl未満	1.29	-
	男性13.5g/dl未満、女性12.5g/dl未満	-	1.31
ヘマトクリット	30%未満	-	1.23
	15万/ μ l未満	1.51	-
血小板	12万/ μ l未満	-	1.43
	8万/ μ l未満	1.53	-
アルブミン	2g/dl未満	1.67	1.48
	3g/dl未満	-	1.37
総ビリルビン	3mg/dl以上	1.70	1.97
AST(GOT)	35U/l以上	1.35	1.43
アルカリホスファターゼ(ALP)	600U/l以上	1.73	1.61
尿素窒素	20mg/dl以上	1.77	1.76
	25mg/dl以上	1.41	1.27
クレアチニン	2mg/dl以上	-	1.50
血清ナトリウム	130mEq/l未満	1.68	1.75
	145mEq/l以上	1.69	-
CRP	10mg/dL未満	1.49	1.53
白血球	4000/ μ l未満	1.40	-
	4500/ μ l未満	-	1.50

改定履歴

版	更新日	更新内容
第1.00版	2014/4/1	初版作成(対象術式:胃全摘術)
第1.01版	2014/4/28	臍頭十二指腸切除術の情報を新規追加
第1.02版	2014/11/6	以下の術式の情報を新規追加 ・肝切除術 ・結腸右半切除術 ・食道切除再建術 以下の誤記を修正 [胃全摘] リスク因子 修正前: 手術: 膵脾摘除術 修正後: 膵体尾部切除術(悪性)
第1.03版	2014/12/11	以下の術式の情報を新規追加 ・低位前方切除術 以下を修正 [肝切除術] リスク因子: 胆嚢悪性腫瘍手術 ・2013年NCD術式改訂に伴う見直し 修正前: 「OQ0189」 修正後: 「NQ0505」
第1.04版	2015/3/26	以下の術式の情報を新規追加 ・急性汎発性腹膜炎手術
第1.05版	2015/5/12	術式表記順を消化器外科領域専門医術式に揃えるため変更
第1.06版	2015/7/9	以下の術式の情報を新規追加 ・胃切除術

NCD消化器外科領域・リスクモデル 計算対象症例の条件

下記の条件を満たす症例について、術後死亡等の発症確率が計算されます。
条件を満たしていない場合は、発症確率は表示されません。

食道切除再建術 リスク計算対象症例

NCD術式1～8のいずれかで、次のNCD術式が選択されている場合
(ただし、NCD術式:消化器外科術式=1:nの場合は、対象となる消化器外科術式の選択が必須)

・ 2015年症例

NCD術式コード	NCD術式名	消化器外科術式名 ※NCD術式:消化器外科術式=1:nの場合	特記事項
OQ0027	食道切除再建術(頸部・胸部・腹部の操作)		
OQ0028	食道切除再建術(胸部・腹部の操作)		
OQ0029	食道切除再建術(腹部の操作)		
NQ0591	食道悪性腫瘍切除術(消化管再建を併う)(頸部、胸部、腹部の操作)(血管吻合を伴わない)	食道切除再建術	
NQ0592	食道悪性腫瘍切除術(消化管再建を併う)(頸部、胸部、腹部の操作)(血管吻合を伴うもの)	食道切除再建術	
NQ0593	食道悪性腫瘍切除術(消化管再建を併う)(胸部、腹部の操作)	食道切除再建術	
NQ0594	食道悪性腫瘍切除術(消化管再建を併う)(腹部の操作)	食道切除再建術	
OQ0043	食道悪性腫瘍切除術(消化管再建を併う)(頸部、胸部、腹部の操作)(血管吻合を伴わない)(胸腔鏡下)	食道切除再建術	
NQ0595	食道悪性腫瘍切除術(消化管再建を併う)(頸部、胸部、腹部の操作)(血管吻合を伴うもの)(胸腔鏡下)	食道切除再建術	
NQ0596	食道悪性腫瘍切除術(消化管再建を併う)(胸部、腹部の操作)(血管吻合を伴わない)(胸腔鏡下)	食道切除再建術	
NQ0573	頸部食道悪性切除術(消化管再建を併う)(頸部、腹部の操作)		
NQ0574	頸部食道悪性切除術(消化管再建を併う)(頸部、胸部、腹部の操作)		
SQ0047	非開胸食道抜去術(消化管再建を併う)		
NQ0609	胃管切除	食道切除再建術	2015年追加術式

・ 2014年症例

NCD術式コード	NCD術式名	消化器外科術式名 ※NCD術式:消化器外科術式=1:nの場合	特記事項
OQ0027	食道切除再建術(頸部・胸部・腹部の操作)		
OQ0028	食道切除再建術(胸部・腹部の操作)		
OQ0029	食道切除再建術(腹部の操作)		
NQ0591	食道悪性腫瘍切除術(消化管再建を併う)(頸部、胸部、腹部の操作)(血管吻合を伴わない)	食道切除再建術	
NQ0592	食道悪性腫瘍切除術(消化管再建を併う)(頸部、胸部、腹部の操作)(血管吻合を伴うもの)	食道切除再建術	
NQ0593	食道悪性腫瘍切除術(消化管再建を併う)(胸部、腹部の操作)	食道切除再建術	
NQ0594	食道悪性腫瘍切除術(消化管再建を併う)(腹部の操作)	食道切除再建術	
OQ0043	食道悪性腫瘍切除術(消化管再建を併う)(頸部、胸部、腹部の操作)(血管吻合を伴わない)(胸腔鏡下)	食道切除再建術	
NQ0595	食道悪性腫瘍切除術(消化管再建を併う)(頸部、胸部、腹部の操作)(血管吻合を伴うもの)(胸腔鏡下)	食道切除再建術	
NQ0596	食道悪性腫瘍切除術(消化管再建を併う)(胸部、腹部の操作)(血管吻合を伴わない)(胸腔鏡下)	食道切除再建術	
NQ0573	頸部食道悪性切除術(消化管再建を併う)(頸部、腹部の操作)		
NQ0574	頸部食道悪性切除術(消化管再建を併う)(頸部、胸部、腹部の操作)		
SQ0047	非開胸食道抜去術(消化管再建を併う)		

食道切除再建術 リスク計算対象症例

NCD術式1～8のいずれかで、次のNCD術式が選択されている場合
(ただし、NCD術式:消化器外科術式=1:nの場合は、対象となる消化器外科術式の選択が必須)

・ 2013年症例

NCD術式コード	NCD術式名	消化器外科術式名 ※NCD術式:消化器外科術式=1:nの場合	特記事項
OQ0027	食道切除再建術(頭部・胸部・腹部の操作)		NCD術式名の変更があるが、NCD術式コードは変更しないため、FBでは変更なし。
OQ0028	食道切除再建術(胸部・腹部の操作)		
OQ0029	食道切除再建術(腹部の操作)		
NQ0567	頸部食道癌手術	食道切除再建術	2013年術式改訂に伴い追加
OQ0039	食道悪性腫瘍切断術(消化管再建を併う)(頭部、胸部、腹部の操作) (血管吻合を伴わない)	食道切除再建術	NCD術式名の変更があるが、NCD術式コードは変更しないため、FBでは変更なし。
OQ0040	食道悪性腫瘍切断術(消化管再建を併う)(頭部、胸部、腹部の操作) (血管吻合を伴うもの)	食道切除再建術	
OQ0041	食道悪性腫瘍切断術(消化管再建を併う)(胸部、腹部の操作)	食道切除再建術	
OQ0042	食道悪性腫瘍切断術(消化管再建を併う)(腹部の操作)	食道切除再建術	
OQ0043	食道悪性腫瘍切除術(消化管再建を併う)(頭部、胸部、腹部の操作) (血管吻合を伴わない)(胸腔鏡下)	食道切除再建術	
OQ0044	食道悪性腫瘍切断術(消化管再建を併う)(頭部、胸部、腹部の操作) (血管吻合を伴うもの)(胸腔鏡下)	食道切除再建術	
OQ0045	食道悪性腫瘍切断術(消化管再建を併う)(胸部、腹部の操作)(血管吻合を伴わない)(胸腔鏡下)	食道切除再建術	
NQ0573	頸部食道悪性切除術(消化管再建を併う)(頭部、腹部の操作)		2013年術式改訂に伴い追加
NQ0574	頸部食道悪性切除術(消化管再建を併う)(頭部、胸部、腹部の操作)		

・ 2012年症例

NCD術式コード	NCD術式名	消化器外科術式名 ※NCD術式:消化器外科術式=1:nの場合	特記事項
OQ0027	食道切除再建術 1. 頭部、胸部、腹部の操作による		
OQ0028	食道切除再建術 2. 胸部、腹部の操作による		
OQ0029	食道切除再建術 3. 腹部の操作による		
OQ0039	食道悪性腫瘍切断術(消化管再建術を併施するもの) 1. 頭部、胸部、腹部の操作による(血管吻合を伴わないもの)	食道切除再建術	
OQ0040	食道悪性腫瘍切断術(消化管再建術を併施するもの) 2. 頭部、胸部、腹部の操作による(血管吻合を伴うもの)	食道切除再建術	
OQ0041	食道悪性腫瘍切断術(消化管再建術を併施するもの) 3. 胸部、腹部の操作による	食道切除再建術	
OQ0042	食道悪性腫瘍切断術(消化管再建術を併施するもの) 4. 腹部の操作による	食道切除再建術	
OQ0043	胸腔鏡下食道悪性腫瘍切除術(消化管再建術を併施するもの) 1. 頭部、胸部、腹部の操作による(血管吻合を伴わないもの)	食道切除再建術	
OQ0044	胸腔鏡下食道悪性腫瘍切除術(消化管再建術を併施するもの) 2. 頭部、胸部、腹部の操作による(血管吻合を伴わないもの)	食道切除再建術	
OQ0045	胸腔鏡下食道悪性腫瘍切除術(消化管再建術を併施するもの) 3. 胸部、腹部の操作による(血管吻合を伴わないもの)	食道切除再建術	

・ 2011年症例

NCD術式コード	NCD術式名	消化器外科術式名 ※NCD術式:消化器外科術式=1:nの場合	特記事項
OQ0027	食道切除再建術 1. 頭部、胸部、腹部の操作による		
OQ0028	食道切除再建術 2. 胸部、腹部の操作による		
OQ0029	食道切除再建術 3. 腹部の操作による		
OQ0039	食道悪性腫瘍切断術(消化管再建術を併施するもの) 1. 頭部、胸部、腹部の操作による(血管吻合を伴わないもの)	食道切除再建術	
OQ0040	食道悪性腫瘍切断術(消化管再建術を併施するもの) 2. 頭部、胸部、腹部の操作による(血管吻合を伴うもの)	食道切除再建術	
OQ0041	食道悪性腫瘍切断術(消化管再建術を併施するもの) 3. 胸部、腹部の操作による	食道切除再建術	
OQ0042	食道悪性腫瘍切断術(消化管再建術を併施するもの) 4. 腹部の操作による	食道切除再建術	
OQ0043	胸腔鏡下食道悪性腫瘍切除術(消化管再建術を併施するもの) 1. 頭部、胸部、腹部の操作による(血管吻合を伴わないもの)	食道切除再建術	
OQ0044	胸腔鏡下食道悪性腫瘍切除術(消化管再建術を併施するもの) 2. 頭部、胸部、腹部の操作による(血管吻合を伴わないもの)	食道切除再建術	
OQ0045	胸腔鏡下食道悪性腫瘍切除術(消化管再建術を併施するもの) 3. 胸部、腹部の操作による(血管吻合を伴わないもの)	食道切除再建術	

NCD消化器外科領域・リスクモデル 計算対象症例の条件

下記の条件を満たす症例について、術後死亡等の発症確率が計算されます。
条件を満たしていない場合は、発症確率は表示されません。

胃全摘術 リスク計算対象症例

NCD術式1～8のいずれかで、次のNCD術式が選択されている場合
(ただし、NCD術式:消化器外科術式=1:nの場合は、対象となる消化器外科術式の選択が必須)

・ 2015年症例

NCD術式コード	NCD術式名	消化器外科術式名 ※NCD術式:消化器外科術式=1:nの場合	特記事項
OQ0127	胃全摘術(良性)		
OQ0136	胃悪性腫瘍手術(単純全摘)		
OQ0137	胃悪性腫瘍手術(広汎全摘・有茎腸管移植術を伴わない)		
OQ0138	胃悪性腫瘍手術(広汎全摘・有茎腸管移植術を伴う)		
OQ0141	胃悪性腫瘍手術(全摘)(腹腔鏡下)		
NQ0609	胃管切除	胃全摘術(噴門側胃切除を含む)	2015年追加術式
NQ0610	残胃全摘	胃全摘術(噴門側胃切除を含む)	2015年追加術式

・ 2014年症例

NCD術式コード	NCD術式名	消化器外科術式名 ※NCD術式:消化器外科術式=1:nの場合	特記事項
OQ0127	胃全摘術(良性)		
OQ0136	胃悪性腫瘍手術(単純全摘)		
OQ0137	胃悪性腫瘍手術(広汎全摘・有茎腸管移植術を伴わない)		
OQ0138	胃悪性腫瘍手術(広汎全摘・有茎腸管移植術を伴う)		
OQ0141	胃悪性腫瘍手術(全摘)(腹腔鏡下)		

・ 2013年症例

NCD術式コード	NCD術式名	消化器外科術式名 ※NCD術式:消化器外科術式=1:nの場合	特記事項
OQ0127	胃全摘術(良性)		NCD術式名の変更があるが、NCD術式コードは変更ないため、FBでは変更なし。
OQ0136	胃悪性腫瘍手術(単純全摘)		
OQ0137	胃悪性腫瘍手術(広汎全摘・有茎腸管移植術を伴わない)		
OQ0138	胃悪性腫瘍手術(広汎全摘・有茎腸管移植術を伴う)		
OQ0141	胃悪性腫瘍手術(全摘)(腹腔鏡下)		

※下記は削除

NCD術式コード	NCD術式名	消化器外科術式名 ※NCD術式:消化器外科術式=1:nの場合	特記事項
OQ0133	胃悪性腫瘍手術(腹腔鏡による)	胃全摘術(噴門側胃切除を含む)	NCD術式の改定で廃盤となったため

・ 2012年症例

NCD術式コード	NCD術式名	消化器外科術式名 ※NCD術式:消化器外科術式=1:nの場合	特記事項
OQ0127	胃全摘術		
OQ0136	胃悪性腫瘍手術 3. 全摘、単純		
OQ0137	胃悪性腫瘍手術 4. 全摘、広汎 2. その他のもの		
OQ0138	胃悪性腫瘍手術 4. 全摘、広汎 1. 有茎腸管移植術を伴うもの		
OQ0141	腹腔鏡補助下胃悪性腫瘍手術 2. 全摘		
OQ0133	胃悪性腫瘍手術(腹腔鏡による)	胃全摘術(噴門側胃切除を含む)	

・ 2011年症例

NCD術式コード	NCD術式名	消化器外科術式名 ※NCD術式:消化器外科術式=1:nの場合	特記事項
OQ0127	胃全摘術		
OQ0136	胃悪性腫瘍手術 3. 全摘、単純		
OQ0137	胃悪性腫瘍手術 4. 全摘、広汎 2. その他のもの		
OQ0138	胃悪性腫瘍手術 4. 全摘、広汎 1. 有茎腸管移植術を伴うもの		
OQ0141	腹腔鏡補助下胃悪性腫瘍手術 2. 全摘		
OQ0133	胃悪性腫瘍手術(腹腔鏡による)	胃全摘術(噴門側胃切除を含む)	

NCD消化器外科領域・リスクモデル 計算対象症例の条件

下記の条件を満たす症例について、術後死亡等の発症確率が計算されます。
条件を満たしていない場合は、発症確率は表示されません。

結腸右半切除術 リスク計算対象症例

NCD術式1～8のいずれかで、次のNCD術式が選択されている場合
(ただし、NCD術式:消化器外科術式=1:nの場合は、対象となる消化器外科術式の選択が必須)

・ 2015年症例

NCD術式コード	NCD術式名	消化器外科術式名 ※NCD術式:消化器外科術式=1:nの場合	特記事項
OQ0312	結腸切除術(結腸半側切除)	結腸右半切除術	
NQ0548	結腸切除術(悪性腫瘍)(単純切除)	結腸右半切除術	
NQ0550	結腸切除術(悪性腫瘍)(広汎切除)	結腸右半切除術	
OQ0323	結腸切除術(悪性腫瘍)(腹腔鏡下)	結腸右半切除術	
OQ0326	結腸切除術(腹腔鏡下)	結腸右半切除術	

・ 2014年症例

NCD術式コード	NCD術式名	消化器外科術式名 ※NCD術式:消化器外科術式=1:nの場合	特記事項
OQ0312	結腸切除術(結腸半側切除)	結腸右半切除術	
NQ0548	結腸切除術(悪性腫瘍)(単純切除)	結腸右半切除術	
NQ0550	結腸切除術(悪性腫瘍)(広汎切除)	結腸右半切除術	
OQ0323	結腸切除術(悪性腫瘍)(腹腔鏡下)	結腸右半切除術	
OQ0326	結腸切除術(腹腔鏡下)	結腸右半切除術	

・ 2013年症例

NCD術式コード	NCD術式名	消化器外科術式名 ※NCD術式:消化器外科術式=1:nの場合	特記事項
OQ0312	結腸切除術(結腸半側切除)	結腸右半切除術	NCD術式名の変更があるが、NCD術式コードは変更ないため、FBでは変更なし。
NQ0548	結腸切除術(悪性腫瘍)(単純切除)	結腸右半切除術	OQ0321からの変更
NQ0550	結腸切除術(悪性腫瘍)(広汎切除)	結腸右半切除術	OQ0322からの変更
OQ0323	結腸切除術(悪性腫瘍)(腹腔鏡下)	結腸右半切除術	NCD術式名の変更があるが、NCD術式コードは変更ないため、FBでは変更なし。
OQ0326	結腸切除術(腹腔鏡下)	結腸右半切除術	

※2013年より下記は削除

NCD術式コード	NCD術式名	消化器外科術式名 ※NCD術式:消化器外科術式=1:nの場合	特記事項
OQ0321	小腸または結腸悪性腫瘍手術 1. 切除、単純	結腸右半切除術	
OQ0322	小腸または結腸悪性腫瘍手術 2. 切除、広汎	結腸右半切除術	
OQ0327	結腸悪性腫瘍手術(腹腔鏡による)	結腸右半切除術	

・ 2012年症例

NCD術式コード	NCD術式名	消化器外科術式名 ※NCD術式:消化器外科術式=1:nの場合	特記事項
OQ0312	結腸切除術 3. 結腸半側切除	結腸右半切除術	
OQ0321	小腸または結腸悪性腫瘍手術 1. 切除、単純	結腸右半切除術	
OQ0322	小腸または結腸悪性腫瘍手術 2. 切除、広汎	結腸右半切除術	
OQ0323	腹腔鏡下結腸切除術、(進行)悪性腫瘍手術	結腸右半切除術	
OQ0326	結腸良性腫瘍手術(腹腔鏡による)	結腸右半切除術	
OQ0327	結腸悪性腫瘍手術(腹腔鏡による)	結腸右半切除術	

・ 2011年症例

NCD術式コード	NCD術式名	消化器外科術式名 ※NCD術式:消化器外科術式=1:nの場合	特記事項
OQ0312	結腸切除術3. 結腸半側切除	結腸右半切除術	
OQ0322	小腸または結腸悪性腫瘍手術 2. 切除、広汎	結腸右半切除術	
OQ0323	腹腔鏡下結腸切除術、(進行)悪性腫瘍手術	結腸右半切除術	
OQ0326	結腸良性腫瘍手術(腹腔鏡による)	結腸右半切除術	
OQ0327	結腸悪性腫瘍手術(腹腔鏡による)	結腸右半切除術	

NCD消化器外科領域・リスクモデル 計算対象症例の条件

下記の条件を満たす症例について、術後死亡等の発症確率が計算されます。
条件を満たしていない場合は、発症確率は表示されません。

低位前方切除術 リスク計算対象症例

NCD術式1～8のいずれかで、次のNCD術式が選択されている場合
(ただし、NCD術式:消化器外科術式=1:nの場合は、対象となる消化器外科術式の選択が必須)

・ 2015年症例

NCD術式コード	NCD術式名	消化器外科術式名 ※NCD術式:消化器外科術式=1:nの場合	特記事項
OQ0366	直腸悪性腫瘍手術(単純切除)	低位前方切除術	
OQ0368	直腸悪性腫瘍手術(広汎切除)(低位)		
OQ0369	超低位直腸前方切除術(経肛門的結腸囊肛門吻合)		
NQ0589	腹腔鏡下低位前方切除術(早期直腸癌)		
OQ0371	直腸切除術	低位前方切除術	

・ 2014年症例

NCD術式コード	NCD術式名	消化器外科術式名 ※NCD術式:消化器外科術式=1:nの場合	特記事項
OQ0366	直腸悪性腫瘍手術(単純切除)	低位前方切除術	
OQ0368	直腸悪性腫瘍手術(広汎切除)(低位)		
OQ0369	超低位直腸前方切除術(経肛門的結腸囊肛門吻合)		
NQ0589	腹腔鏡下低位前方切除術(早期直腸癌)		
OQ0371	直腸切除術	低位前方切除術	

・ 2013年症例

NCD術式コード	NCD術式名	消化器外科術式名 ※NCD術式:消化器外科術式=1:nの場合	特記事項
OQ0366	直腸悪性腫瘍手術(単純切除)	低位前方切除術	
OQ0368	直腸悪性腫瘍手術(広汎切除)(低位)		
OQ0369	超低位直腸前方切除術(経肛門的結腸囊肛門吻合)		
NQ0589	腹腔鏡下低位前方切除術(早期直腸癌)		OQ0372からの変更
OQ0371	直腸切除術	低位前方切除術	NCD術式名の変更があるが、NCD術式コードは変更ないため、FBでは変更なし。

※2013年より下記は削除

NCD術式コード	NCD術式名	消化器外科術式名 ※NCD術式:消化器外科術式=1:nの場合	特記事項
OQ0372	内視鏡下低位前方切除術(早期直腸癌)	低位前方切除術	

・ 2012年症例

NCD術式コード	NCD術式名	消化器外科術式名 ※NCD術式:消化器外科術式=1:nの場合	特記事項
OQ0366	直腸悪性腫瘍手術 1. 切除、単純	低位前方切除術	
OQ0368	直腸悪性腫瘍手術 3. 切除、広汎(低位)		
OQ0369	経肛門的結腸囊肛門吻合による超低位前方切除術		
OQ0372	内視鏡下低位前方切除術(早期直腸癌)		
OQ0371	腹腔鏡下直腸切除術	低位前方切除術	

・ 2011年症例

NCD術式コード	NCD術式名	消化器外科術式名 ※NCD術式:消化器外科術式=1:nの場合	特記事項
OQ0366	直腸悪性腫瘍手術 1. 切除、単純	低位前方切除術	
OQ0368	直腸悪性腫瘍手術 3. 切除、広汎(低位)		
OQ0369	経肛門的結腸囊肛門吻合による超低位前方切除術		
OQ0372	内視鏡下低位前方切除術(早期直腸癌)		
OQ0371	腹腔鏡下直腸切除術	低位前方切除術	

NCD消化器外科領域・リスクモデル 計算対象症例の条件

下記の条件を満たす症例について、術後死亡等の発症確率が計算されます。
条件を満たしていない場合は、発症確率は表示されません。

肝切除術 リスク計算対象症例

NCD術式1～8のいずれかで、次のNCD術式が選択されている場合
(ただし、NCD術式:消化器外科術式=1:nの場合は、対象となる消化器外科術式の選択が必須)

・ 2015年症例

NCD術式コード	NCD術式名	消化器外科術式名 ※NCD術式:消化器外科術式=1:nの場合	特記事項
NQ0505	胆嚢悪性腫瘍手術(亜区域4a+5以上の肝切除を伴う)	肝切除術(外側区域を除く区域以上)	
OQ0224	肝切除術(2区域切除)		
OQ0225	肝切除術(3区域切除)		
OQ0226	肝切除術(血行再建を併う)		
NQ0512	肝切除術(1区域切除)(外側区域切除をのぞく)		
OQ0229	肝切除術(亜区域・区域切除)(腹腔鏡下)	肝切除術(外側区域を除く区域以上)	
OQ0232	胆管悪性腫瘍切除術(肝切除を伴う)	肝切除術(外側区域を除く区域以上)	
NQ0584	肝尾状葉切除術		

・ 2014年症例

NCD術式コード	NCD術式名	消化器外科術式名 ※NCD術式:消化器外科術式=1:nの場合	特記事項
NQ0505	胆嚢悪性腫瘍手術(亜区域4a+5以上の肝切除を伴う)	肝切除術(外側区域を除く区域以上)	
OQ0224	肝切除術(2区域切除)		
OQ0225	肝切除術(3区域切除)		
OQ0226	肝切除術(血行再建を併う)		
NQ0512	肝切除術(1区域切除)(外側区域切除をのぞく)		
OQ0229	肝切除術(亜区域・区域切除)(腹腔鏡下)	肝切除術(外側区域を除く区域以上)	
OQ0232	胆管悪性腫瘍切除術(肝切除を伴う)	肝切除術(外側区域を除く区域以上)	
NQ0584	肝尾状葉切除術		

・ 2013年症例

NCD術式コード	NCD術式名	消化器外科術式名 ※NCD術式:消化器外科術式=1:nの場合	特記事項
NQ0505	胆嚢悪性腫瘍手術(亜区域4a+5以上の肝切除を伴う)	肝切除術(外側区域を除く区域以上)	OQ0189からの変更
OQ0224	肝切除術(2区域切除)		
OQ0225	肝切除術(3区域切除)		NCD術式名の変更があるが、NCD術式コードは変更ないため、FBでは変更なし。
OQ0226	肝切除術(血行再建を併う)		
NQ0512	肝切除術(1区域切除)(外側区域切除をのぞく)		OQ0223からの変更
OQ0229	肝切除術(亜区域・区域切除)(腹腔鏡下)	肝切除術(外側区域を除く区域以上)	NCD術式名の変更があるが、NCD術式コードは変更ないため、FBでは変更なし。
OQ0232	胆管悪性腫瘍切除術(肝切除を伴う)	肝切除術(外側区域を除く区域以上)	
NQ0584	肝尾状葉切除術		2013年術式改訂に伴い追加

※2013年より下記は削除

NCD術式コード	NCD術式名	消化器外科術式名 ※NCD術式:消化器外科術式=1:nの場合	特記事項
OQ0189	胆嚢悪性腫瘍手術 2. 肝切除を伴うもの	肝切除術(外側区域を除く区域以上)	OQ0189は、2013年改訂によりNQ0504、NQ0505に変更となった。 (なお、フィードバック機能の肝切除術の対象術式・リスク因子としては、NQ0504のみ非該当)
OQ0223	肝切除術 2. 1区域切除	肝切除術(外側区域を除く区域以上)	OQ0223は、2013年改訂によりNQ0510、NQ0511、NQ0512に変更となった。 (フィードバック機能の肝切除術の対象術式としては、NQ0510、NQ0511は、「肝切除術(外側区域を除く区域以上)」は非該当)

肝切除術 リスク計算対象症例

NCD術式1～8のいずれかで、次のNCD術式が選択されている場合
 (ただし、NCD術式:消化器外科術式=1.nの場合は、対象となる消化器外科術式の選択が必須)

・ 2012年症例

NCD術式コード	NCD術式名	消化器外科術式名 ※NCD術式:消化器外科術式=1.nの場合	特記事項
OQ0189	胆嚢悪性腫瘍手術 2. 肝切除を伴うもの	肝切除術(外側区域を除く区域以上)	
OQ0223	肝切除術 2. 1区域切除	肝切除術(外側区域を除く区域以上)	
OQ0224	肝切除術 3. 2区域切除		
OQ0225	肝切除術 4. 3区域切除		
OQ0226	肝切除術 4. 3区域切除		
OQ0229	腹腔鏡下肝切除術 2. 亜区域・区域切除	肝切除術(外側区域を除く区域以上)	
OQ0232	肝外胆道切除 3. 肝切除を伴うもの	肝切除術(外側区域を除く区域以上)	

・ 2011年症例

NCD術式コード	NCD術式名	消化器外科術式名 ※NCD術式:消化器外科術式=1.nの場合	特記事項
OQ0189	胆嚢悪性腫瘍手術 2. 肝切除を伴うもの	肝切除術(外側区域を除く区域以上)	
OQ0223	肝切除術2. 1区域切除		
OQ0224	肝切除術3. 2区域切除		
OQ0225	肝切除術4. 3区域切除		
OQ0226	肝切除術5. 血行再建を併せ行う	肝切除術(外側区域を除く区域以上)	
OQ0229	腹腔鏡下肝切除術2. 亜区域・区域切除	肝切除術(外側区域を除く区域以上)	
OQ0232	肝外胆道切除3. 肝切除を伴うもの	肝切除術(外側区域を除く区域以上)	

NCD消化器外科領域・リスクモデル 計算対象症例の条件

下記の条件を満たす症例について、術後死亡等の発症確率が計算されます。
条件を満たしていない場合は、発症確率は表示されません。

膵頭十二指腸切除術 リスク計算対象症例

NCD術式1～8のいずれかで、次のNCD術式が選択されている場合
(ただし、NCD術式:消化器外科術式=1.nの場合は、対象となる消化器外科術式の選択が必須)

・ 2015年症例

NCD術式コード	NCD術式名	消化器外科術式名 ※NCD術式:消化器外科術式=1.nの場合	特記事項
OQ0269	膵頭十二指腸切除術		
NQ0521	膵頭十二指腸切除術(リンパ節・神経叢郭清を伴う)		
OQ0271	膵頭十二指腸切除術(周辺臓器の合併切除を伴う)		
OQ0272	膵頭十二指腸切除術(動脈もしくは門脈再建を伴う)		
OQ0190	胆嚢悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除を伴う)		

・ 2014年症例

NCD術式コード	NCD術式名	消化器外科術式名 ※NCD術式:消化器外科術式=1.nの場合	特記事項
OQ0269	膵頭十二指腸切除術		
NQ0521	膵頭十二指腸切除術(リンパ節・神経叢郭清を伴う)		
OQ0271	膵頭十二指腸切除術(周辺臓器の合併切除を伴う)		
OQ0272	膵頭十二指腸切除術(動脈もしくは門脈再建を伴う)		
OQ0190	胆嚢悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除を伴う)		

※下記は削除

NCD術式コード	NCD術式名	消化器外科術式名 ※NCD術式:消化器外科術式=1.nの場合	特記事項
OT0154	膵全摘術(動脈もしくは門脈再建を伴う)	膵頭十二指腸切除術	2014年改訂で消化器外科術式の紐付が解除され、消化器外科共通項目の対象術式となったため。

・ 2013年症例

NCD術式コード	NCD術式名	消化器外科術式名 ※NCD術式:消化器外科術式=1.nの場合	特記事項
OQ0269	膵頭十二指腸切除術		NCD術式名の変更があるが、NCD術式コードは変更ないため、FBでは変更なし。
NQ0521	膵頭十二指腸切除術(リンパ節・神経叢郭清を伴う)		OQ0270からの変更
OQ0271	膵頭十二指腸切除術(周辺臓器の合併切除を伴う)	膵頭十二指腸切除術	
OQ0272	膵頭十二指腸切除術(動脈もしくは門脈再建を伴う)	膵頭十二指腸切除術	
OT0154	膵全摘術(動脈もしくは門脈再建を伴う)	膵頭十二指腸切除術	NCD術式名の変更があるが、NCD術式コードは変更ないため、FBでは変更なし。
OQ0190	胆嚢悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除を伴う)		

※2013年より下記は削除

NCD術式コード	NCD術式名	消化器外科術式名 ※NCD術式:消化器外科術式=1.nの場合	特記事項
OQ0268	膵頭十二指腸切除術		

・ 2012年症例

NCD術式コード	NCD術式名	消化器外科術式名 ※NCD術式:消化器外科術式=1.nの場合	特記事項
OQ0268	膵頭十二指腸切除術		
OQ0269	膵頭部腫瘍切除術 1. 膵頭十二指腸切除術		
OQ0270	膵頭部腫瘍切除術 2. リンパ節・神経叢郭清を伴うもの又は十二指腸温存膵頭切除術	膵頭十二指腸切除術	
OQ0271	膵頭部腫瘍切除術 3. 周辺臓器の合併切除を伴うもの	膵頭十二指腸切除術	
OQ0272	膵頭部腫瘍切除術 4. 血行再建を伴うもの	膵頭十二指腸切除術	
OT0154	膵頭十二指腸切除もしくは全摘術に血行再建を伴う場合	膵頭十二指腸切除術	
OQ0190	胆嚢悪性腫瘍手術 3. 膵頭十二指腸切除を伴うもの		

膵頭十二指腸切除術 リスク計算対象症例

NCD術式1～8のいずれかで、次のNCD術式が選択されている場合
 (ただし、NCD術式:消化器外科術式=1.nの場合は、対象となる消化器外科術式の選択が必須)

・ 2011年症例

NCD術式コード	NCD術式名	消化器外科術式名 ※NCD術式:消化器外科術式=1.nの場合	特記事項
OQ0268	膵頭十二指腸切除術		
OQ0269	膵頭部腫瘍切除術 1. 膵頭十二指腸切除術		
OQ0270	膵頭部腫瘍切除術 2. リンパ節・神経叢郭清を伴うもの又は 十二指腸温存膵頭切除術	膵頭十二指腸切除術	
OQ0271	膵頭部腫瘍切除術 3. 周辺臓器の合併切除を伴うもの	膵頭十二指腸切除術	
OQ0272	膵頭部腫瘍切除術 4. 血行再建を伴うもの	膵頭十二指腸切除術	
OT0154	膵頭十二指腸切除もしくは全摘術に血行再建を伴う場合	膵頭十二指腸切除術	
OQ0190	胆嚢悪性腫瘍手術 3. 膵頭十二指腸切除を伴うもの		

NCD消化器外科領域・リスクモデル 計算対象症例の条件

下記の条件を満たす症例について、術後死亡等の発症確率が計算されます。
条件を満たしていない場合は、発症確率は表示されません。

急性汎発性腹膜炎手術 リスク計算対象症例

NCD術式1～8のいずれかで、次のNCD術式が選択されている場合
(ただし、NCD術式:消化器外科術式=1.nの場合は、対象となる消化器外科術式の選択が必須)

・ 2015年症例

NCD術式コード	NCD術式名	消化器外科術式名 ※NCD術式:消化器外科術式=1.nの場合	特記事項
OQ0088	急性汎発性腹膜炎手術 (腹腔内貯留膿汁の処置および排膿誘導術)		
OQ0089	腹腔鏡下汎発性腹膜炎手術		

・ 2014年症例

NCD術式コード	NCD術式名	消化器外科術式名 ※NCD術式:消化器外科術式=1.nの場合	特記事項
OQ0088	急性汎発性腹膜炎手術 (腹腔内貯留膿汁の処置および排膿誘導術)		
OQ0089	腹腔鏡下汎発性腹膜炎手術		

・ 2013年症例

NCD術式コード	NCD術式名	消化器外科術式名 ※NCD術式:消化器外科術式=1.nの場合	特記事項
OQ0088	急性汎発性腹膜炎手術 (腹腔内貯留膿汁の処置および排膿誘導術)		
OQ0089	腹腔鏡下汎発性腹膜炎手術		

・ 2012年症例

NCD術式コード	NCD術式名	消化器外科術式名 ※NCD術式:消化器外科術式=1.nの場合	特記事項
OQ0088	急性汎発性腹膜炎手術 (腹腔内貯留膿汁の処置および排膿誘導術)		
OQ0089	腹腔鏡下汎発性腹膜炎手術		

・ 2011年症例

NCD術式コード	NCD術式名	消化器外科術式名 ※NCD術式:消化器外科術式=1.nの場合	特記事項
OQ0088	急性汎発性腹膜炎手術 (腹腔内貯留膿汁の処置および排膿誘導術)		
OQ0089	腹腔鏡下汎発性腹膜炎手術		